

# 中和ボランティアだより

発行 中和地区社協 令和5年7月1日

今回は中和地区のボランティア団体「ささゆり会」の弁当作り班を紹介します。ささゆり会のメンバーは総勢12名ですが、組織としては

- ◎「美化活動班」(主に花壇の整備活動をします)
- ◎「配食活動班」(毎週高齢者に弁当を配ります)
- ◎「食事作り班」(年に数回食事や弁当を作ります)

以上の3つに分かれています。総人数が少ないため会員のみなさんは複数の班に重複して入って活動されており、その一つが「食事作り班」です。

## 今年は4年ぶりに七夕会も開催!

年間の最初の班の活動は毎年8月に行われる「七夕会」です。これは子どもからお年寄りまでの3世代が集まり、一緒に七夕飾りを作ったり流しそめんを楽しんだりする人気のイベントです。そこでみんなが食べるそうめんをゆでたり、から揚げを揚げたりするのですが、ここ数年はコロナのために中止を余儀なくされてきました。コロナも落ち着いた今年は久しぶりに賑わいが戻ってきそうで、会員のみなさんの期待もふくらんでいます。



最後の盛り付けです!

手際よく作業が進みます



サイコー

## ベテラン主婦の手作り弁当は最高です!



出来立をお届けします

そして冬場になると地域の高齢者に配るお弁当を2回作ります。ベテランの主婦ぞろいのメンバーが手際良く作るお弁当はボリュームもあって味も最高。毎年お年寄りの方からもとても喜ばれています。食事作り班の班長の美甘英子さんは「会員みんなで心をこめて作る料理ですので、おいしいと言ってもらえると嬉しいですし励みになります」と話されます。

コロナもやっと落ち着きを見せてきましたが、配食の対象者には高齢者の方が多いため、食事を提供する作業はとても気を遣います。

□にした方々の「おいしかったよ」の一言が聞けることを楽しみにボランティアのみなさんは今年もイベントにお弁当作りに頑張ってくださいませ。

裏面もあるよ

今年もあの炊き込みご飯はあるのでしょうか...



# ポランティア昔ばなし

お調子者の

# 桃太郎

昔むかしあるところに、おじいさんとおばあさんがいました。  
おじいさんは山へ柴刈りに、おばあさんは川へ洗濯に行きました…

中略

ある日成長した桃太郎は言いました「おじいさん、おばあさん、私は鬼ヶ島に鬼退治に行きますー」

**爺** 「なんと突然じゃが、この流れはみなわかしておるからまあいいじゃな。」

しかし鬼ヶ島はこの前の台風で被害を受けて大変な事になっておるぞうじゃぞ」

**桃** 「おっ！これはチャンスーこの機会に鬼たちを「ニンパン」やっつけてやりましょうー」

**爺** 「いやいや桃太郎、そんな鬼のようなことを言うぞでない。鬼とはいえ困っている時には

助けてあげることが大切な事じゃ。いわばポランティア精神じゃな」

**桃** 「そうでした。鬼たちも私たちも困った時にはおたがい様ですからね」

今なら楽に勝てるのに…と、ちよびり残念に思った桃太郎でしたがポランティアに

行くことになりました。道中で犬と猿とキジが家来になり、一行は鬼ヶ島に到着しました。

やってきた桃太郎たちを見て初めは警戒していた鬼たちも、桃太郎一行が

復興支援に来てくれたことを知って涙を流して喜びました。まさに鬼の目にも涙です。

桃太郎たちはポランティアとして一生懸命働きました。

そのおかげですばらくすると鬼ヶ島はすっかり元通りにになりました。

**鬼** 「ありがとうございます。あなたがたの美しい奉仕の心に打たれたので、今後悪いことは

一切いたしません。お礼これをお持ちください」と言ってお押し車に山積みのお宝を差し出しました。

「いやいや、これはどーも…」と、手を伸ばしかけた桃太郎に犬が言いました。

**犬** 「ポランティアは奉仕の活動です。私たちも手伝わせてもらってとても充実した時間を

過ごさせてもらったではありませんか」

**桃** 「そうだったな。こんなものを受け取ってはポランティア精神に反しますので」と、しぶしぶ返しました。

**鬼** 「しかし何もお礼なしではこちらも困ります。せめてこれだけはお願いですのでお持ちください」

そう鬼が言うとい匹の小さな鬼が現れて玉手箱を差し出しました。それを見て、えーっ！これってヤバイやつ

じゃないのー？と、犬も猿もキジも思いましたが、何も知らない桃太郎はもう受け取ってしまっていました。

**爺** 「こ苦労じゃったな、桃太郎」



鬼ヶ島から帰った桃太郎をおじいさんとおばあさんは大喜びで迎えました。

**桃** 「何もおみやげはありませんが、鬼たちがどうしてもというのでこれをもらってきました」

そう言ってお桃太郎が差し出した玉手箱を見ておじいさんもおばあさんもびくりました。えーっ！これって

ヤバイやつじゃないのー？と思っっているうちに桃太郎はさっさと口をほどこいてふたを開けてしまいました。

すると中から白い煙がモクモクと立ち上がり、部屋の中は真っ白です。

しばらくして煙が晴れた部屋の中には若返ってりりしい青年に戻ったおじいさんと

美しい娘に戻ったおばあさんがいました。

そしてそのそばでは赤ん坊の桃太郎が元気な泣き声をあげています。

どうやらこの玉手箱を持ってきた小さな鬼は「天邪鬼（あまのじゃく）」だったようです。

何でも反対のことをしてしまう天邪鬼は、本来なら歳を取るはずの玉手箱なのに

反対に若返る玉手箱を渡したのです。

「うして若返ったおじいさんとおばあさんは桃太郎と三人で末永く幸せに暮らしましたとさ。

めでたし めでたし

めでたし めでたし

昔むかしあるところに、おじいさんとおばあさんがいました。

おじいさんは山へ柴刈りに、おばあさんは川へ洗濯に行きました…

ある日成長した桃太郎は言いました「おじいさん、おばあさん、私は鬼ヶ島に鬼退治に行きますー」

